



未来へ

 紀の川市議会だより
令和元年【2019】8月1日発行 No.50

- 
- (特集)「酵素温浴ラマ」..... P2
 - 令和元年 第2回定例会 P4
 - 日曜議会を開催しました！..... P6
 - 委員会報告..... P7
 - 市政を問う(一般質問)..... P8
 - 追跡 あの質問、どうなったの?..... P15

始まりは 家族の介護

〜酵素温浴ラマ〜

鍋山

菊江さんきくえ

正衣さんまさえ



和歌山へは家族で

和歌山へは20年ほど前に、千葉から来られた鍋山さん一家。

きっかけは、正衣さんが鍼灸師になるため、熊取の専門学校へ行くようになったことです。それに合わせるようにお父さんが早期退職し、お父さんの友人が住んでいた岩出に家族で引っ越して来ました。

前が海、後ろは山

和歌山に来て2年、打田町の神領に家を建てることになりました。設計事務所にお父さんが気に入った家の模型があり、その家の形と土地が合うとのことを決めたそうです。

しかし、設計士さんはその家には前が海、後ろは山、そんな情景が思い浮かんでいたようです。現地を見た設計士さんが、山はあるが海がないと困惑されているとき、前に「海神社」がありますと話す納得してくれました。



きっかけは母

和歌山へ来たのち、母の菊江さんが、父の両親と自身の親も引き取り、3人の面倒を見ることになりました。菊江さんは、2人も3人も同じです、と話されていましたが、簡単にできることではないですよ。



菊江さんは、神領に移ってから、家族のために何かできないかと考え、酵素風呂がいいだろうと思いい立ち、家を改造し酵素風呂を作ったそうです。

最初は、家族のために作りましたが、一般の方にも利用していただけたようにしました。

利用者は、口コミで来られる方がほとんどでした、と菊江さんは話します。

70歳から始める

酵素風呂は管理が大変で、おがくず・米ぬかを足し、攪拌し空気を入れる作業を毎日しなければなりません。一日休むと元に戻すのに二日かかるので、一日以上留守にするということができません。



酵素風呂は約70℃あり、温度管理の関係から一日最大6人までしか受け入れられません。温度管理は季節によっても違うし大変です、と正衣さんは話します。

不要になったおがくずは酵素菌がいっぱいあり、畑の肥料として利用できるそうです。以前は借りていた畑で使っていました。大量に持ち帰った方からは、田んぼに使って、撒いて2年目には作物の成長が違うと言われたそうです。

本格的に再出発

菊江さんは、年齢からくる体力の衰えもあり、一時期やめていました。しかし当時利用していただいていた方に申し訳ないという思いで、5年ほど前から正衣さんが継ぐように



になりました。3年前からはインターネットで検索されやすいようホームページを作り、多くの方に知ってもらおうとしています。

お客さんのなかには、50mくらいしか歩けなかった方が、何度か通っているうちに、今では普通に東京へも行くようになった人もいます。

たった一度の利用でも便秘が解消した人もいますので、酵素風呂にはなにか効果がありそうです。

紀の川市はいつでも くすくす

紀の川市は景色も良く、とても住みやすい、くすくすです。田畑が

太陽光発電ばかりにならないように願います、とお二人は話します。よく汗をかくこの仕事の関係で化粧はできないんです、と話すそのお二人の顔はとても艶やかでした。

(榎本・竹村)

酵素温浴とは…発酵した米ぬかやおがくずの中に身体全体を入れて、自然発酵熱を利用して体を温めるお風呂



笑顔が素敵な菊江さん(左)と正衣さん(右)